

「高校教育指導課通信」では、各学校の工夫した取組等について情報提供します。第18号は府中高等学校です。

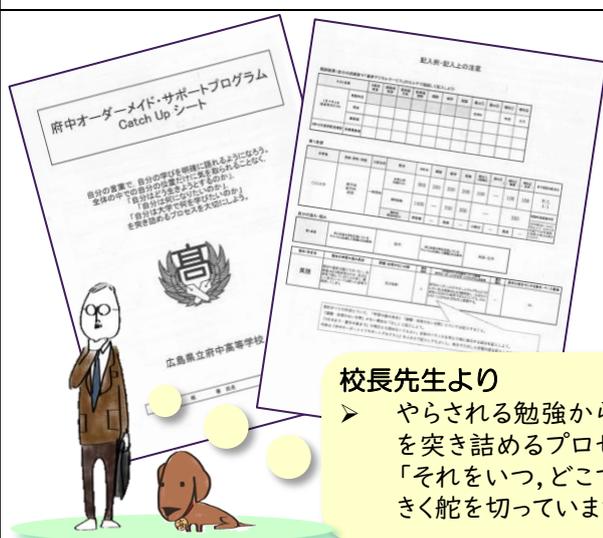
令和2年7月7日(火)

府中高等学校 <http://www.fucyu-h.hiroshima-c.ed.jp/>

主体的な学びを促す工夫

—自らの学習上の弱点を分析し、克服のための学習計画の作成を通して—

自らの学びや生活を自己分析し、学習計画を立てる力の育成



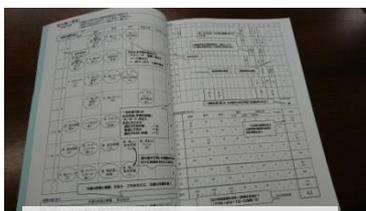
○ 生徒の学力向上のためには、自らの学びや生活を自己分析しながら、学習計画と学習内容を自己管理することが必要であると考え、「府中オーダーメイド・サポートプログラム」を実施しています。単元末考査や模擬試験の結果を基に、生徒が自らの学習上の弱点を分析し、その克服に向けた学習計画を自ら立てていきます。生徒が教材等を選択することができるよう、各教科おすすめの教材等及び学習の進め方・アドバイスをまとめたプリントを作成し配付しています。

校長先生より

➢ やらされる勉強からの脱却と言ってもよいでしょう。「自分はどう生きようとするのか」を突き詰めるプロセスを踏まえて、進路希望の実現に向けて、「取り組むべきこと」と「それをいつ、どこでするのか」を自分で設定して自分でコントロールする学びへと大きく舵を切っています。

自らの学びをモニタリングする力の育成

○ 生徒に計画的に学習に取り組ませるとともに、自らの学びをモニタリングする力を身に付けさせるために、「府中物語」(第一巻～第三巻)という冊子に、一週間の学習計画や学習記録を付けさせています。



「府中物語」とその記入例

家庭学習の見直し

○ 自らの弱点を克服するための学習を進めることができるようにするため、一律に課していた学習課題を減らしていく取組をしています。将来的には、3年生への一律に課す学習課題をなくすことも検討しています。

担当の先生より

➢ 全ての生徒の学力が一律に課している学習課題の難易度に合致するわけではありません。生徒にとって効果的な家庭学習にしていくことは、「個別最適な学び」の実現であるといえます。



※1年生は予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、学びの作法を身に付けることを重視していることから、2学期末までは対象外です。

観点別学習状況の評価の改善

- 「評価が変わらなければ授業は変わらない。」との考えから、知識・技能に重点が置かれていたこれまでの評価の見直しを進めています。全ての教科・科目の単元ごとにパフォーマンス課題を課して思考力・判断力・表現力等を発揮させ、ルーブリックにより評価しています。
- また、単元末と学期末に記入させる振り返りシートの記述を基に、「どういう気付きがあったのか」、「次に何に取り組むべきか」が記述されているかという視点で、関心・意欲・態度をルーブリックで評価しています。定期的に評価することで、生徒の様々な変容を捉えることができ、それを授業改善につなげています。